



今年度の学校訪問相談を振り返って

一年間、学校訪問相談活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。多くの児童・生徒・保護者・教職員の皆様に接し、お話を伺い、課題解決の方策等について一緒に考えることができました。学校訪問カウンセラー一同、心より感謝申し上げます。

過去3年間の「児童・生徒の主な相談内容と相談件数」は右のとおりです。(R7は、ほかに保護者26件、教職員46件、合計1,158件)

児童・生徒の相談では、「日常生活」に関する相談が最も多く、続いて「学習・進路」、「友人関係」、「学校生活」の順でした。

児童・生徒の主な相談内容と相談件数(1月末集計)

	友人関係	家族関係	学習・進路	学校生活	日常生活	その他	合計
R7年度	203	54	230	160	358	81	1086
R6年度	248	72	140	267	259	81	1067
R5年度	247	64	189	242	352	116	1210

さて、学校訪問相談活動の課題は次の二つです。

- 1 悩みや困難を訴えられずに悩んでいる児童・生徒を一人でも多く相談室に誘うこと
- 2 相談に来た児童・生徒が主体的に解決に向けて進もうとする意欲を高めること

1の課題については、各学校でも児童・生徒の自発的な来室を促す方策や、児童・生徒と相談室との橋渡しなどの面で、様々なご配慮やご支援をいただきました。

学校訪問カウンセラーとしては、次のような声かけを心がけています。

- ・小さなことでもいいのでお話ししに来てください
- ・一人だと心細い人は付き添いの人と一緒に来てでもいいですよ
- ・<カウンセリング体験をした場合>
一人で悩まずに早めに身近な人やカウンセラーに相談してください

このような声かけの結果、数人で一緒に相談に来たり、カウンセリング体験後に改めて相談に来たりする児童もいました。

2の課題については、次のような対応に努めたり、心がけたりしています。

- ・相手の話を傾聴し、感情に寄り添う言葉を探すとともに、事象の関係性や経緯、思いや願い等を相談者と一緒に整理する。
- ・課題解決に向けた対応を話し合い、相談者自ら得意なこと、できていること、やっていることなどに気付くようにする。

以前、友人関係に悩む児童が来室し、相談の途中で時間切れになった時に、「話を聞いてもらえて元気が出ました」と笑顔を見せてくれたことがありました。一緒に話し合う中で、そ

の子なりの解決の糸口をつかむことができたのかもしれませんが。その児童は、しばらく後に再来室し、明るい表情で問題が解決に向かったことを報告してくれました。

今年度も残りわずかとなりました。一年間の相談活動の振り返りを確実に行うとともに、各学校から寄せられたご意見・ご要望を生かし、新年度もよりよい相談室運営と相談活動を目指していきます。そして、相談者の不安や悩みの解決・解消に資することができるよう微力ながら努めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

(担当 学校訪問相談部長 富永)

通常の学級と通級指導教室の連携に向けての取組 ～発達障害通級指導教室LD連携に焦点を当てて～

中学校学習指導要領では、教師間の連携や指導等について、次のように示されています。

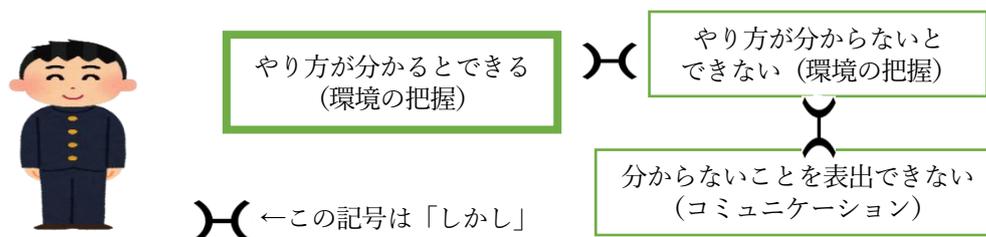
- ・通級対象生徒（以下、対象生徒）に対し効果的な指導が行われるよう、各教科との関連を図るなど、教師間の連携に努める。
- ・通常の学級担任は、各教科の指導を行うに当たり、障害のある生徒の学習活動における「困難さ」に対する「指導上の工夫や意図」を理解し、個に応じた様々な「手立て」を検討し、指導に当たっていく必要がある。

この中で下線部分が大きな課題です。「困難さに対する通常の学級担任の気付き」には個人差があり、20～30人の在籍生徒を指導する通常の学級担任にとって、対象生徒の学習活動における「困難さ」に気付きそれに応じた「手立て」を講じるのは至難の業です。そのため、助言を行う役割を担う通級指導担当は、通常の学級担任に対し支援を行っていくことがとても重要です。

そこで、「発達障害通級指導教室LD連携」の取組を紹介します。「LD連携」という判断が出された生徒が在籍する中学校に対し、連携について学ぶ機会を設けました。

- ・大学教授と学校教育課指導主事が該当校を訪れ、対象生徒の授業を参観する。
- ・自立活動の6区分を観点として付箋に対象生徒の様子を書き出す。
- ・教頭、通級指導担当、大学教授、指導主事の4人で付箋をKJ法で分類し課題を整理する。

すると、対象生徒の課題は、「やり方が分かるとできる」が「やり方が分からないとできない」ようであり、「自分が分からないことを表出できない」という三つに整理されました。



そこで、今後次のような対策を講ずることにしました。

- ・通常の学級担任は、対象生徒にとってやり方が分かるような授業を目指す。
- ・通級指導担当は、対象生徒に対し、やり方が分からない自分に気付くことができるような指導をする。
- ・対象生徒が「分からないこと」を通級指導担当に伝えた場合、通級指導担当が通常の学級担任に対象生徒の「分からないこと」を伝え、学級担任はそれを基に授業を改善する。

課題が整理されたことで「やり方が分かるとできる」ことを、改めて確認することができました。そこで、「やり方が分かる授業の工夫」と題し、全教職員対象に次の2回のミニ研修を行うことにしました。

ミニ研修1（15分程度）

1. LD（学習障害）について説明：通級指導担当（5分）
2. 自分の授業を想起し、リストを基にセルフチェックして、「私のひと工夫」を記入（10分）
（※参加者全員が記入した「私のひと工夫」を通級指導担当がまとめる。）

ミニ研修2（30分程度） ・研修の流れの説明：通級指導担当（1分）

1. ミニ研修1でまとめた「私のひと工夫」を、参加者全員で確認（3分）
2. 3学期に取り組みたいことを、特定の生徒を想定しながら各自で記入（3分）
3. 2で自己決定した3学期の取組についての話し合い：4～5人のグループ（10分）
4. 全体でシェアリング（1分）
5. 指導講評：大学教授（5分）

【グループでの話し合いの様子】

話し合いは約10分程度続きましたが、大変盛り上がり、話が途切れることはありませんでした。そこで話し合われた「やり方が分かる授業の工夫」を次に紹介します。

- ・板書の量が多くなりがちなので、できるだけ内容を精選した板書を心がける。
- ・廊下側にあるロッカーの備品が気になり、話を聞かずに触ってしまう生徒がいるので、片付ける。
- ・話を聞いているようで聞いていない生徒がいるので、指示を出した後に黒板にも書いておく。
- ・言葉だけではイメージできないので、画像などを提示してそこから発想できるようにする。

【大学教授の指導講評】

教師は日頃から教科指導の中で実践的に知識を蓄えているので、それらを共有し合う今回のような研修は、各教科の授業力向上において大変有効です。

実践的知識をさらにスキルアップしていくために大事な視点は、**子どもから学ぶ**ことです。障がいをもつ子どもたちは教師のスキルを高めてくれる存在です。教科の中で工夫できることはたくさんあり、**教師の工夫で多くの子どもたちが意欲的に学習に向かうことができるようになる**はずで、教師の様々な工夫について情報交換する研修を、今後もぜひ続けてください。



「日頃の授業の工夫をみんなで学び合う研修」は、若手教師が先輩教師から学ぶとてもよい機会ともなります。また、日頃から教科指導の中で実践的に知識を蓄えている先生方が、**日頃からの実践や工夫について情報を共有していくことが大事**です。今回ご紹介した中学校の取組をモデルとして、「発達障害通級指導教室LD連携」の実践に取り組んでいただける学校が増えるよう、教育委員会としても精一杯支援してまいります。

（学校教育課 指導主事 引場）

令和7年度冬期カウンセリング研修会

～ 講座の様子や参加者の感想を紹介します ～

「不登校への適切なアプローチ」

～ 教師の主體的なかかわり ～

FR 教育臨床研究所 花輪 敏男 所長

- ★不登校支援に対する具体的なお話で、見通しが持てず不安だった気持ちが前向きになった。職員や保護者と相談しながら、子どもの支援を進めていきたい。
- ★増え続ける不登校について、概要から実際の対応まで広く学ぶことができた。当事者の子どもたちに「ガソリン」を入れることを考えながら支援し、伴走していきたい。



「学級で使えるクラスワイドな支援」

金沢学院大学 佐田東 彰 教授



- ★クラスワイドな支援は、特定の児童だけに向けた特別な対応ではなく、学級全体の学びや安心感を高める土台づくりであると感じました。
- ★「ほめる」ということが印象に残り、自分自身を振り返ることができた。余裕の無さ、意識の無さがほめるという行動に繋がらなかったと反省した。すぐに表れる変化を求めてしまうが、継続は力なりを胸に、学期ごと、1年後をみて言動を心がけていきたい。

令和8年度カウンセリング研修の予定

7月29日 (水) AM	<家庭・関係機関との連携>	臨床心理士	小林 東 様
7月30日 (木) AM	<特別支援教育>	新潟大学	村中 智彦 教授
7月30日 (木) PM	<学級経営>	國學院大學	杉田 洋 教授
7月31日 (金) PM	<不登校>	真生会富山病院医師	明橋 大二 医師
12月25日 (金) AM	<学級経営>	金沢学院大学	佐田東 彰 教授
12月28日 (月) AM	<カウンセリング・教育相談>	上越教育大学	田中 圭介 准教授

※詳細については、4月上越市立教育センター「令和8年度研修案内」をご覧ください。
夏期は**5月末**に、冬期は**10月下旬**に校支援文書管理システムで案内文書を配信します。